

## グローバル人材育成プログラム に参加して

松岡大誠  
Taisei MATSUOKA  
機械システム工学科 3年

### 1. はじめに

2019年8月16日～9月1日にかけて、理工学部のグローバル人材育成プログラムを通して、アメリカの企業でインターンシップを行なった。そこで、世界で必要とされるグローバル人材とは何か、そしてなぜグローバル人材が必要とされているのか、日本とアメリカの仕事に対する価値観や考え方の違い、さらには会話を通して語学を学ぶための研修をカリフォルニア州サンマテオで行った。

### 2. シリコンバレー企業視察

8月16日企業視察を行った。はじめにFitbitの投資家熊谷さんのお話を聞き、実際にアメリカの企業で必要とされる人材について学びました。Fitbitの社内には各フロアに無料で飲みものや、食べ物を自由に食べることができる施設など、自由に仕事ができる場所だった。さらに、Fitbitのデバイスは健康な毎日が送れるようサポートしてくれるデバイスである。例えば、時と場合によって変化する心拍数をsmart trackと呼ばれる技術を用いて正確に測定できるなど高度な技術をいかにシンプルにかつ低コストで製品化できるかなど、無限の可能性を秘めている会社だなと感じた。また、私が思うグローバル人材は英語が話せる人であると思い熊谷さんに質問すると、予想外の回答が返ってきた。英語が話せなくても良い。ただ英文を読解できる人材が必要と教えて頂きました。理由は、何事も研究開発する前にたくさんの論文などを読み情報収集を行わなければ研究開発は始まらない。また、何事にも挑戦することが大切と学んだ。まさにグローバルな人材が必要とされる場所であった。

### 3. 講演会

8月17日にシリコンバレー近辺のホテルにて、アメリカで実際に勤務されている山田様、カンザダ・アミル様に体験談とともに日本の学生に対するアドバイスを頂いた。その後、テーブルごとに分かれてディスカッションを行った。山田様は、とてもパワフルな方で、インターネットが存在しない時代と存在する時代の有効活用方法をわかりやすく説明して下さった。今現在はインターネットが存在し、一人一人持っている情報量が違い情報を世界に発信していくべきだと言われておられました。「100人100通りの考え方」100人の社員がいたら100通りの考え方が生まれると学んだ。また、思い立ったら行動する。何事にも挑戦することが大切で失敗、成功をたくさん経験したものが成長できると学んだ。アミル様の話はアメリカのIT企業を立ち上げ、アメリカだけでなく日本の文化も取り入れるため永平寺町エボリューション大使になるなど他国の文化考え方を大切にされている方でした。山田様、アミル様両者共に行動力があり、何事にも挑戦し失敗を恐れない方だなと感じた。

### 4. ホームステイ

17日の講演会終了後、ホテルからレッドウッドシティーにあるホストファミリーのお宅へと移動した。私のホームステイ先はスペイン出身の方とサンフランシスコ出身の方々にお世話になることとなった。有名なショッピングモールに連れて行ってもらい楽しく会話をしながら買い物をしたり有意義が時間を過ごすことができた。ランチには日本食で有名なお寿司を御馳走になった。また、スペインの料理も御馳走になり異文化にも触れることができた。始めは不安だったがアメリカでの生活を不自由なく過ごすことができた。

### 5. ホスト先での研修内容

今回のインターンシップでは、アメリカのサンマ

テオという農業機械の修理・販売をなっている企業に2週間お世話になった。職場には日本人はいなく始めはとても緊張した。しかし、幼少期から農業機械に興味があったことにより修理に用いる道具の名称は知っていたため、積極的に修理すると共に英語を用いて伝わるように必死に努力した。主に芝刈り機械に修理を行った。それぞれの機械に修理依頼書があり、例えばエンジンがスタートできないなどたくさん問題を抱えた機械がたくさん存在した。一つ例としてエンジンがスタートできない草刈り機械について述べる。メカニックは故障の原因を長年の経験から創造しなければならない。エンジンがスタートしない原因として、エンジンオイルの汚れ、キャブレターの汚れ、スパークプラグの寿命、この3つが原因と考えられる。実際に点検したところ、複数の汚れが見受けられた。また点検していくうちに他にもこれから使用していくと故障するであろう箇所も発見し改善することができた。こういった予想することもよいメカニックと学ぶことができた。またこれらの問題となった部分を図1に示す。

これらすべて汚れが原因となりエンジンがスタートできなかったことが判明した。

メカニックとして目視で確認できる故障と耳で機械の音を聞いて故障箇所を発見するなどたくさん勉強になった。故障箇所が分かれば考え修理することは可能である。しかし、コミュニケーションは大切だなと感じた。一人では解決できない問題もある。そんな時違った考え方をを持った仲間意見に意見を仰ぎ皆で機械の修理をしたり、どんな困難な問題にも諦め

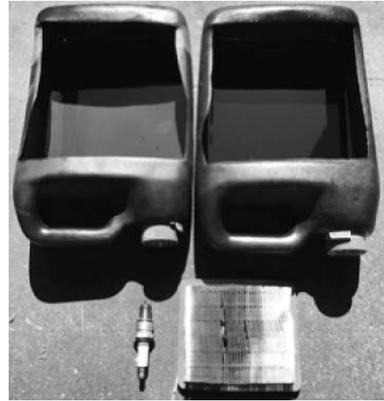


図1 取り除いたエンジンオイル、ガソリン、スパークプラグ、エアフィルター

ず挑戦するという事も学んだ。企業で働かれている方々はとても親切で、毎日のランチには、お味噌汁を注文してくださるなど、いたり尽くせりだった。大好きな農業機械に触れながら異文化を学べたことを誇りにおもった。

## 6. おわりに

今回のプログラムを通して、自分自身の語学力を試すことができたと同時に様々な文化に触れることでアメリカの社会を学ぶことができた。また、グローバル人材とは、英語が話せたらいいだけでなく、自分が持っている個性を最大限に活かし何事にも挑戦できる人材がふさわしいと考えた。今回のプログラムは私がグローバル人材を目指すために何が必要なのか、その手掛かりを知る非常に良い機会となった。